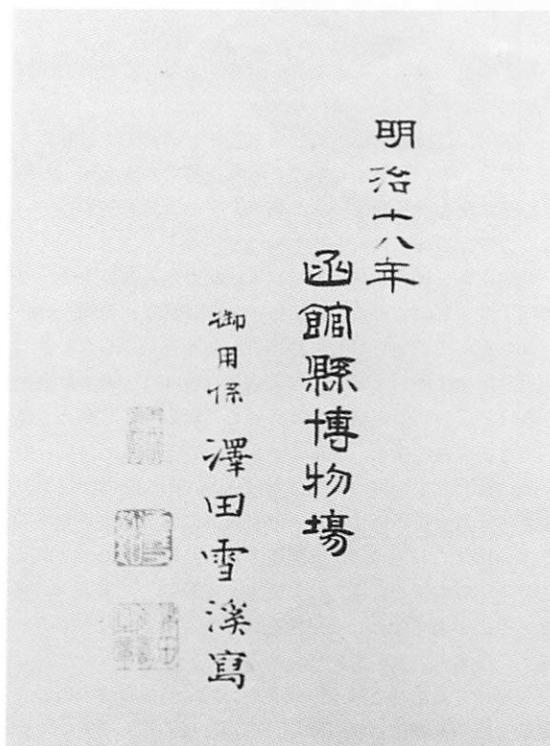


澤田雪溪の「日本鳥類図絵」

ここに紹介するのは、現在函館中部高等学校に保管されている博物館の旧蔵品である。澤田雪溪は、仙台の人で函館県時代に函館に招かれた画工で、「アイヌ絵」や「鶉山道図巻」「函湾全景」などが博物館と図書館にある。「日本鳥類図絵」は何冊かに分かれていたのであろうが、いま

は正しい表題も明らかでない。これは函館県博物場御用掛であった明治18年に完成したもので鳥の生態が彩色で描かれている。当時の博物場には函館在留のT. W. ブラキストンと福士成豊の日本鳥類剥製標本1314羽が陳列され、ブラキストンとプレイヤー共著「BIRDS OF JAPAN」でブラキストン・ラインが学界などで話題となっていた。

ブラキストンの鳥類剥製標本は、明治41年に北海道大学に移り現在農学部付属博物館にあるが、澤田雪溪の鳥類図絵は自然科学史、美術史上貴重な存在といえよう。



研究と資料

恒吉休右衛門の事跡

箱館戦争に使用された軍服と、血染のチョッキは、日本軍服変遷史上極めて貴重な資料として、サラニップ第15号でも紹介したが、今回は所用者恒吉休右衛門の経歴について触れてみることにした。

休右衛門は弘化3年(1846)恒吉喜作の次男として鹿児島に生まれた。長男半兵衛とは2歳違いであるが、両親の期待は生まれつき利発な休右衛門に注がれていた。

明治元年戊辰戦争の勃発で、彼は薩摩兵具方三番隊長に抜擢され、兄半兵衛(半隊長)と共に、東征大総督に従い錦旗を掲げて江戸へ向った。

膠着状態が続いていた奥羽の戦線を打開するため、西郷隆盛を総指揮官とする兵具隊に出軍の命が下ったのは8月3日であった。

最後まで頑強に抵抗を続ける庄内藩兵を随所に撃破し、四方の国境を取り囲み、総攻撃の準備を完了した一触即発の時点で、参謀黒田了介より兵具三番隊に出された「至急後令を待つように」との命令書も保存されているが、日付は9月26日11時発とある。翌日、藩主酒井忠篤は全面降伏を申し出、多くの犠牲者を出すことなく奥羽の戦乱は終焉をみたのである。降る者は罰せずの寛大な降伏条件を結んだ西郷は、兵具隊を率いさっさと徹退してしまった。このことで、庄内の人々は、西郷を救世主の如く崇めたという話が伝えられている。

箱館戦争で黒田のとった終戦処理もまた、この時の西郷の感化によるものといわれる。

「明治二己歳箱館出軍前於東京写」と裏書のある写真も残されているが、肩から拳銃を吊り指揮用の鞭を持った剽悍な薩摩単人の遺影は、まだ黒ラシャの軍服を着用していないので、これ以後入手したものであろう。

箱館攻略を目ざす第一次追討軍が蝦夷地乙部に上陸したのは4月9日のことで、脱走軍の思わぬ反撃に苦戦を強いられた官軍は予定を早め4月16日、薩摩兵具隊を含む第二次追討軍を江差に上陸させた。兵具三番隊は、直ちに苦戦を続ける二股峠の応援に駆けつけた。脱走軍の守將土方歳三もこの天険を重視、地形を利用した銃撃戦は16日間、断続的に行われ、両軍の消費弾薬は100,000余発を数えた。三番隊は勇猛果敢に数度の攻撃を試みたが、陣地を攻略できず、勇気ある徹退作戦に変更された。標高500mを越える骨幹山脈の道なき道を切り開き、安野呂より噴火湾の落部へ中央突破するという想像を絶する行動に出たのも兵具隊で、脱走軍の補給を絶つ目的も果たした。

5月11日箱館総攻撃が開始され、桔梗野方面より行動を開始した三番隊は右翼攻撃隊に参加、脱走軍もまた、この戦に最後の運命を賭け、大鳥圭介指揮のもとに既設の堡塁を利用した銃撃戦が行われた。早朝からの激戦で弾薬の欠

乏した三番隊は隊長を先頭に突撃に移ろうとした時、飛来した一弾に休右衛門は胸部右脇に貫通銃創を被った。軍医長安藤精軒の必死の手当も空しく23歳の生涯を閉じた。弾痕のある軍服と血染のチョッキはこの



恒吉半兵衛勝重・恒吉休右衛門勝賀

時のもので、遺骸は兄の手で汐見ヶ丘に埋葬された。

5月18日五稜郭は開城された。榎本以下首謀者7名は皇裁を仰ぐべく唐丸籠で東京へ押送され、その途中、それぞれ心境を歌や、詩に託した。この時の激戦を回想した荒井郁之助のよめる歌に

「もののふの血汐に染めし桔梗野に

草もみどりになりやしつらん」

薩摩藩は功を称え破格の恩給証書を交付した。

御扶持米百俵 但し三拾ヶ年限

兵具隊小隊長 恒吉休右衛門

右は昨春以来諸所に出兵致し王事のため忠節を揃えて奮戦に及び賊巢を屠り速に成功を賞め得て御藩威も相立実に完難の功少からず候処、終に戦死を逃げ千歳武夫の龜鑑と相成べく、別して御感の至に候、ついでに親子兄弟の情不慮と思召され等級被仰付出行の通り被下置かれ候。右申渡すべく候。

十二月 知政所

その後、一家は東京へ引き移り、半兵衛は麹町警察署に勤めたが、わが子の戦死した土地で、残り少ない年月を終りたいとする父喜作の願望も黙し難く、一家を挙げて草深い桔梗野に居を移した。遺品もまた、鹿児島から、東京へ、そしてゆかりの地函館へと移された。

時移り大正11年、恒吉与治郎(半兵衛の次男・七飯村々長)の手で、五稜郭公園内懐旧館(現兵糧庫)に一括寄贈公開された。その後館の閉鎖、管理者の移動で散逸し、昭和30年、博物館五稜郭分館に軍服は引き継がれた。

草芒々の桔梗野一帯も今は函館のベッタウンとして色彩豊かな住宅が建ち並び、往時の面影は何一つ残されていないが、子孫の方は今もなお、桔梗野の辺に住んでおられる。

特別展 箱館と江戸文化

博物館本館では、恒例の特別展を函館公園の花見時期に開催している。会期は5月1日から6月30日までの2か月間である。昭和55年度は江戸文化を扱った。函館が歴史的にみて繁栄したのは、江戸時代に入ってからで松前が京文化の影響を強く受けたのに対して函館は江戸文化の影響を受けた。港の発展は、寛延元年(1748)に福山(松前)・江差と共に交易指定港となり、これらは松前三港と呼ばれたが、寛政11年(1799)になると幕府は東蝦夷地を直轄し、箱館に奉行が設けられると高田屋の活躍とあわせて政治経済の中心となった。さらに安政元年(1854)にペリーが来航して再び幕府の直轄となってからは、江戸から学識者がきて学問所や銭座・瀬戸座・紙座などが設けられるなど江戸とのかかわりが深くなった。

箱館の江戸時代の風俗や生活様式についての記録や福山、江差の資料、江戸の庶民文化資料によって展示企画をした。

展示室は、1階のロビーと常設展示室である1階展示室、2階展示室を会場とし、1階は江戸時代の箱館略年譜、箱館と代表的人物、江戸火消と箱館消防人足、駕籠と荷車、江戸の甲冑と刀装具、煙管類と財布、江戸時代の楽器、箱館と松前・江差などコーナー別テーマ展示に、2階は江戸風俗と娯楽をテーマとして風俗屏風をはじめ、結髪関係資料、浮世絵関係、看板、娯楽と遊戯の道具、江戸時代の読物が展示された。展示した資料は217件で東京国立博物館、国立国会図書館、たばこと塩の博物館、サントリー美術館、リッカー美術館、天理図書館、函館古銭会、江差町教育委員会、松前町教育委員会などからの出品協力があつた。

この特別展を終えて、函館市内の方々や貴重な資料の出品を賜った関係者に厚くお礼を申し上げる。

レオナルド・ダ・ビンチの世界

”動く科学発明展”を振り返って

レオナルド・ダ・ビンチ(1452—1519)は、ルネッサンス期にイタリアが生んだ偉大な芸術家として知られ、同時にすぐれた科学者でもあつた。

芸術家としては「最後の晩餐」「岩窟の聖母」「聖アンナと聖母子」「キリスト誕生」「アンギアリの戦い」「モナ・リザ」など不朽の名作として広く知られているところである。

レオナルドは芸術家として高く評価されているとともに科学者、技術者としても、人体解剖図・絵画論・鳥の飛翔に関する研究・飛行機・ヘリコプター・地理学・地質学・水力機械装置・運河・都市計画・建築・天文学・物理学・化学・数学・図形・工作機械・船・その他あらゆる科学、技術の分野にわたる記録、考察などが、レオナルドの「手稿」と呼ばれ、左手で文字を裏返しに書いたので全頁が「鏡像文字」になっている。

比類のない創造力と奇想天外な構想を知ることができる精密なスケッチをもとに、レオナルドの研究者であるロベルト・ガッテリ博士が復元、製作されたものが展示された。

この展覧会は国立科学博物館移動展として北海道新聞社が道内6市を巡回する方法で開催され、青少年はもとより大人にいたる幅広い入館者が連日みられた。

従来(現在も)の展示は目で見ること、説明パネルを読むことが多いが、特に目で見、手で触れることによる科学的な探究心と創造の世界をつくりだすなど、今回のような展示方法で今後も展示したいと考えている。

また各地方博物館では多額の費用を要する特別展の開催は大変むずかしいため、日博協・道博協が主体となつての巡回展開催を望んでいる。

—財団法人 科学博物館後援会発行資料参照—

〈主事 横山 勉〉

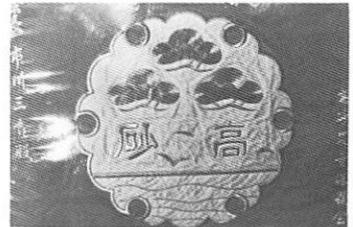
はくぶつかん展示室

▼高砂小学校校旗 (片面部分)

この校旗は卒業生が40年以上も大切に保存していたものである。

函館市立高砂尋常小学校は、明治15年(1882)に創基した函館では古い歴史をもつ学校であったが、昭和9年(1934)の函館大火で焼失し廃校となった。

(前橋市 市川勝治氏
昭和54年寄贈)



▲館砦志士戦没の図 (石版刷)

明治元年11月15日、松前藩が最後の拠点と頼んだ館砦(厚沢部町)奮戦の図で、坊主頭が松前軍事方三上超順で「右手ニ大刀ヲ揮ヒ左手ニ大ナル^{マナイタ}祖板ヲ持チテ丸ヲ禦ギ」とあり、超順はこゝで戦死した。これに立ち向かっているのが、さしずめ脱走軍伊奈誠一郎であろう。(蛸崎広根氏昭和46年寄贈)

最近受け入れた資料

シンガーミシン	1台
【富原 章氏寄贈・函館市日吉町4丁目25-27】	
小札紺絲威2枚胴具足 他8点	計9点
【菊谷愛子氏寄贈・函館市神山町60】	
サーベル	1振
【斎藤文子氏寄贈・函館市松陰町10-3】	
レコード	24枚
【渡辺卓爾氏寄贈・札幌市豊平区北野350-78東苑マンション】	
絆纏 他1点	2枚
【吉川静枝氏寄贈・函館市元町3-13】	
刀身	1振
【佐藤 基氏寄贈・函館市深堀町32-41】	
サモワール	1個
【福原義正氏寄贈・函館市宝来町14-14】	
岡持 他6点	7個
【斎藤文子氏寄贈・函館市松陰町10-3】	
旧市立高砂尋常小学校校旗	1枚
【市川勝治氏寄贈・前橋市江木1276】	
机 他8点	9点
【日魯漁業株式会社寄贈・函館市大手町5-10】	
本膳20人前	一式
【城木タネ氏寄贈・函館市青柳町24-17】	
ここのおびあるまじろ	1匹
【長谷川栄吉氏寄贈・函館市宮前町14-12】	
スナイドル銃	1挺
【大山定雄氏寄贈・函館市市場町23-10】	
詩書	1軸
【沢井久泰氏寄贈・函館市東川町7-15】	
陸軍砲兵少尉正装	一式
【宍戸 守氏寄贈・函館市松陰町18-12】	
櫛製物入れ	1点
【森本操子氏寄贈・函館市谷地頭町18-22】	
シルクハット 他1点	2点
【春日 馨氏寄贈・函館市昭和町214-25】	
丹塗土師器	1点
【藤戸正八氏寄贈・函館市大縄町14-24】	
改正函館港全図	1枚
【松橋多惣治氏寄贈・函館市弁天町12-6】	
日本髪結道具12点	一式
【笹野啓一氏寄贈・釧路市緑ヶ岡4丁目10-48】	
袴 他3点	4点
【笹野啓一氏寄贈・釧路市緑ヶ岡4丁目10-48】	
明治34年函館大火関係書状	1枚
【相坂春山氏寄贈・函館市海岸町1-11】	

測量機と辞令 他5点	6点
【濱津昭一氏寄贈・函館市柏木町12-28】	
デスマスチルスの歯	1点
【赤塚庄三氏寄贈・函館市若松町32-16】	
松前箱館御陣営之図	1点
【梅木通徳氏寄贈・札幌市琴似西区3条3丁目】	
動物写真パネル	57枚
【田中光常氏寄贈・東京都港区赤坂6-5-21-309】	
刀 他3点	4点
【吉村キシ氏寄贈・上磯郡上磯町久根別町108-91】	
掛軸	1軸
【宮本芳美氏寄贈・函館市大手町1-10】	
懐旧館記念写真	1葉
【片山シヅエ氏寄贈・函館市五稜郭町2-17】	
消防夫頭布 他5点	6点
【深澤 剛氏寄贈・函館市杉並町13-3】	
羽織(男子用)	1枚
【加藤トシエ氏寄贈・函館市千代台町11-5】	
雪下駄	3足
【新 ひな氏寄贈・函館市元町31-14】	
おまる	1個
【斎藤将嘉氏寄贈・函館市谷地頭町4-6】	
江戸時代の人形	1点
【森本操子氏寄贈・函館市谷地頭町18-22】	
看板	1枚
【藤川博志氏寄贈・函館市弁天町4-7】	
水桶(大・小)	2個
【西谷西蔵氏寄贈・函館市乃木町1-5】	
古書(文久年間)	2冊
【笹野啓一氏寄贈・釧路市緑ヶ岡4丁目10-48】	
松川弁之助肖像	1軸
【内藤寅治氏寄贈・函館市松川町25-7】	
タンス 他2点	3点
【中島シナ氏寄贈・函館市柏木町20-15】	
籠はく製	1匹
【森 義孝氏寄贈・函館市昭和町279-7】	
張板	3枚
【松尾正富氏寄贈・函館市美原2丁目41-4】	
ひげべら	4点
【小島喜代美氏寄贈・函館市入舟町11-17】	

市立函館博物館蔵品目録No.2 <美術工芸資料篇> 刊行される。

昭和54年に函館博物館創立100周年を迎え、それを記念して蔵品目録が発行されることとなったが、昨年の民族資料篇に引き続き今年度は1420件の資料を掲載した美術工芸資料篇ができあがった。

博物館日誌抄 (55.1.1~56.12.31)

55. 1. 4 御用始め
17 大阪大学文学部斯波教授近世史研究のため来館
23 旧開拓使函館支庁仮博物館1号館修復のため資料搬出(～1月29日)
26 防火査察(本館・分館・資料館)
30 カナダ大使一行来館見学
55. 2. 13 空知地区教育委員会関係者5名来館見学
55. 3. 1 姫野英夫学芸係長退職
22 博物館協議会開催
55. 4. 1 長谷部一弘主事、新明謙治囑託、田口忠夫、高橋 清発令
16 レオナルド・ダ・ビンチ展開催(本館～4月20日)
55. 5. 1 特別展“箱館と江戸文化。開催(本館～6月30日)
武具甲冑展開催(分館～5月18日)
10 科学教室(春の星座観測会) 講師津川軍次郎氏
16 青函市民文化交流団12名来館見学
19 児玉とみ、児玉マリ両氏児玉コレクション寄託申し入れのため矢野市長を訪問
21 久留米市議会議員11名視察 大阪大学主催「緒方洪庵と適塾展」へ高松凌雲資料貸出
28 青函市民文化交流団20名来館見学
55. 6. 1 山下利郎庶務係長、千代 肇学芸係長発令
3 考古資料整理実施(～6月28日)
7 科学教室(プラネタリウム見学会) 講師津川軍次郎氏
11 公民館高令者大学26名来館見学
14 科学教室(初歩の電気)講師村上義太郎氏
22 青函市民文化交流団45名来館見学 日本博物館協会館長会議、総会に館長出席(東京都～6月25日)
25 北海道博物館大会に庶務係長出席(浦河町～6月28日)
27 戸田市議会議員10名来館視察(本館・五稜郭分館・郷土資料館)
55. 7. 5 科学教室(夏の星座と七夕観測会) 講師津川軍次郎氏
7 いわき市長田畑金光氏来館見学
19 科学教室(植物野外観察会) 講師宗像和彦氏
22 横浜市議会議員15名来館視察
55. 7. 22 駒沢大学実習生受け入れ(～8月1日)
23 駐日イギリス大使夫妻来館見学(本館・郷土資料館)
55. 7. 27 科学教室(昆虫野外観察会) 講師中嶋康二氏
28 国士館大学実習生受け入れ(～8月3日)
55. 8. 1 札幌商科大学、弘前学院大学実習生受け入れ(～8月8日) 児玉コレクション寄託が決定される
2 市民講座(母と子の土器をつくる会) 講師千代学芸係長ほか
5 国学院大学生34名博物館実習のため来館
6 千代学芸係長、長谷部主事が寄託品調査のため児玉宅を訪問(～8月7日)
7 科学教室(植物野外観察会) 講師宗像和彦氏
8 市民講座(母と子の土器をつくる会、午前、午後) 講師岡田学芸員
9 市民講座(母と子の磯の生物観察会) 講師中野末司、高橋 豊、干場達夫氏 東北福祉大学実習生受け入れ(～8月17日) 科学教室(昆虫野外観察会) 講師佐藤 誠氏
12 法政大学実習生受け入れ(～8月18日)
14 北海道教育大学錦谷教授アイヌ資料調査のため来館
16 科学教室(秋の星座観測会) 講師津川軍次郎氏
24 東北福祉大学実習生受け入れ(～8月31日)
29 秋田県立博物館佐藤副館長来館視察
55. 9. 8 森川 覚学芸員退職
16 ばく涼のため臨時休館(本館～9月30日)
20 科学教室(月の観測会) 講師津川軍次郎氏
25 ばく涼のため臨時休館(分館～10月9日)
55. 10. 7 元姫野学芸係長、西田五稜郭分館庶務係長が日本博物館協会より顕彰される
11 動物はくせい展開催(分館～10月22日)
14 函館市消防展に消防車外資料展示(森屋～10月19日)
30 東京都港区教育長外6名来館視察
55. 11. 1 函館市所蔵文化財展開催(本館～11月16日) 科学教室(昆虫飼養と講演会) 講師中嶋康二氏
55. 12. 20 博物館協議会開催(函館市青年センター)
27 御用納め

入館者統計

昭和53年度平常展示 (53.12.1~54.3.31)

月別	館別	本館		分館		資料館		総計			
		個人	団体	個人	団体	個人	団体				
12	大人	122		122	545	61	606	178	906		
	小人	221		221	90		90	93	404		
	計	343		343	635	61	696	271	1,310		
1	大人	139		139	398		398	184	721		
	小人	272		272	120		120	74	466		
	計	411		411	518		518	258	1,187		
2	大人	141		141	438	116	554	237	1,238		
	小人	264		264	142	193	335	129	742		
	計	405		405	580	309	889	366	1,675		
3	大人	304	13	317	1,404	167	1,571	359	2,247		
	小人	523	55	578	474		474	303	1,355		
	計	827	68	895	1,878	167	2,045	662	3,602		
累計		8,999	1,571	10,570	37,703	20,619	58,322	9,472	876	10,348	79,240

昭和54年度平常展示 (54.4.1~55.3.31)

月別	館別	本館		分館		資料館		総計			
		個人	団体	個人	団体	個人	団体				
4	大人	342		342	1,334	214	1,548	253	2,143		
	小人	419		419	435		435	232	1,086		
	計	761		761	1,769	214	1,983	485	3,229		
5	大人			8,087	881	8,968	698	131	829	9,797	
	小人			3,607	7,013	10,620	193	337	530	11,150	
	計			11,694	7,894	19,588	891	468	1,359	20,947	
6	大人			6,656	2,941	9,597	761	177	938	10,535	
	小人			1,271	5,006	6,277	140	143	283	6,560	
	計			7,927	7,947	15,874	901	320	1,221	17,095	
7	大人	788	2	790	6,439	2,400	8,839	729	143	872	10,501
	小人	558	84	642	1,449	452	1,901	540	239	779	3,322
	計	1,346	86	1,432	7,888	2,852	10,740	1,269	382	1,651	13,823
8	大人	1,791		1,791	13,831	1,436	15,267	1,534	32	1,566	18,624
	小人	1,460		1,460	4,539	1,210	5,749	1,579	156	1,735	8,944
	計	3,251		3,251	18,370	2,646	21,016	3,113	188	3,301	27,568
9	大人	912	167	1,079	5,964	1,785	7,749	999	134	1,133	9,961
	小人	452	585	1,037	910	1,602	2,512	418	172	590	4,139
	計	1,364	752	2,116	6,874	3,387	10,261	1,417	306	1,723	14,100
10	大人	262	15	277	2,065	734	2,799	293	4	297	3,373
	小人	149		149	188	14	202	84	101	185	536
	計	411	15	426	2,253	748	3,001	377	105	482	3,909
11	大人	394	53	447	1,477	284	1,761	370	6363	433	2,641
	小人	302	36	338	177	28	205	120		120	663
	計	696	89	785	1,654	312	1,966	490	63	553	3,304
12	大人	143		143	437	39	476	194		194	813
	小人	279		279	76		76	88		88	443
	計	422		422	513	39	552	282		282	1,256
1	大人	137		137	335	107	442	193		193	772
	小人	173		173	123		123	82		82	378
	計	310		310	458	107	565	275		275	1,150
2	大人	195	23	218	521	95	616	348		348	1,182
	小人	366	42	408	104	263	367	194		194	969
	計	561	65	626	625	358	983	542		542	2,151
3	大人	245		245	1,232	62	1,294	486	36	522	2,061
	小人	514		514	477		477	546	84	630	1,621
	計	759		759	1,709	62	1,771	1,032	120	1,152	3,682
累計		9,881	1,007	10,888	61,734	26,566	88,300	11,074	1,952	13,026	112,214

昭和54年度特別展

本館 (5/1~6/30)

	個人	団体	計
大人	6,223	2,222	8,445
小人	2,416	23,373	25,789
計	8,639	25,595	34,234

昭和55年度平常展示 (55.4.1~55.12.31)

月別	館別	本館		分館		資料館		総計			
		個人	団体	個人	団体	個人	団体				
4	大人	2,805	125	2,930	1,756	311	2,067	323	61	384	5,381
	小人	2,846	1,851	4,697	554	6	560	183		183	5,440
	計	5,651	1,976	7,627	2,310	317	2,627	506	61	567	10,821
5	大人			8,170	1,036	9,206	735	60	795	10,001	
	小人			3,074	5,427	8,501	168	315	483	8,984	
	計			11,244	6,463	17,707	903	375	1,278	18,985	
6	大人			6,275	2,164	8,439	754	18	772	9,211	
	小人			1,187	2,696	3,883	257	119	376	4,259	
	計			7,462	4,860	12,322	1,011	137	1,148	13,470	
7	大人	479	90	569	7,636	2,936	10,572	958	82	1,040	12,181
	小人	454	74	528	1,666	868	2,534	617	51	668	3,730
	計	933	164	1,097	9,302	3,804	13,106	1,575	133	1,708	15,911
8	大人	1,862	79	1,941	16,282	1,763	18,045	1,710	107	1,817	21,803
	小人	1,384	318	1,702	6,076	899	6,975	1,534	118	1,652	10,329
	計	3,246	397	3,643	22,358	2,662	25,020	3,244	225	3,469	32,132
9	大人	420	50	470	5,326	1,899	7,223	831	187	1,018	8,711
	小人	353	475	828	1,141	1,151	2,292	360	188	548	3,668
	計	773	525	1,298	6,467	3,048	9,515	1,191	375	1,566	12,379
10	大人	616	237	853	3,286	934	4,220	642	91	733	5,806
	小人	248	397	645	364	166	530	112	121	233	1,408
	計	864	634	1,498	3,650	1,100	4,750	754	212	966	7,214
11	大人	524	63	587	1,712	572	2,284	337	62	399	3,270
	小人	215		215	209	251	460	100	79	179	854
	計	739	63	802	1,921	823	2,744	437	141	578	4,124
12	大人	93		93	325	71	396	134	14	148	637
	小人	174		174	72	17	89	76	41	117	380
	計	267		267	397	88	485	210	55	265	1,017
累計		12,473	3,759	16,232	65,111	23,165	88,276	9,831	1,714	11,545	116,053

昭和55年度特別展

本館 (5/1~6/30)

	個人	団体	計
大人	4,913	2,142	7,055
小人	1,419	21,490	22,909
計	6,332	23,632	29,964

Hakodate City Museum News

SARANIP-サラニップ-No.20 1981.3.1発行

編集・発行 市立函館博物館 (TEL.0138-23-5480)

北海道函館市青柳町・函館公園内 (〒040)